

潮音寺だより

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

第 293 号
平成 20 年 3 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
E-Mail: choonji@aichi.email.ne.jp

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11



撮影：正道

共^ニ出^デ一^ヨ
【出典】善導大師『往生礼讃偈』
苦^ノ城^ヲ

不平 不満
不服 文句

愚痴に
泣き言

何が何でも

何と

言われようが

山ほどに

言いたいことが
あるはある

と嘆息を

漏らすなかれ

苦しみの城は
出るがよい

あとは
弥陀に添い
まかすがよい

忍是仏心

一月十一日、東京都足立区の機械修理・販売業（52）方で、母親（85）、妻（49）が頭部などを切られ死亡、高校一年の一男（15）は、両手首を切断され、後頭部陥没の重傷、本人も首をなでて切り、死亡しているのが発見されるという、何とも凄惨な事件が発生いたしました。

一家は五人暮らしで、高校三年の長男（18）は、同日、大学受験のため家を出ており、無事だったといひます。

一男は救急隊員に「おやじにやられた」と話し、遺書も見つかつたため、無理心中を図つたものとみられています。遺書には、「母親だけ連れていくつもりだった。でも、どうしても皆を残しては…。自分

が情けない。みんなを守れなかった」との趣旨が記されていたといひます。

このニュースを聞いたとき、思わず絶句し、すぐにはことばが見い出せませんでした。が、ふと思ひ出したのが、大石順教尼のことでした。かつて、文豪吉川英治氏が順教尼を「忍」という字を使うこと



の許されるのは貴女だけだ」と評されたほどの方でもあります。ご

存じの方も多いかと思いますが、足跡をたどってみます。

大石順教尼の略歴

・明21 大阪道頓堀「双葉寿し」の長女として出生（本名：よね）

・明34 堀江遊郭「山梅楼」中川万次郎の養女となる。芸事一本（芸妓名：妻室）

郎の養女となる。芸事一本（芸妓名：妻室）

・明38 養父中川万次郎、妻の浮気に逆上して芸妓八人を斬り捨て

五人は即死、一人妻吉は両腕を失うが奇跡的に命を取り留める。17才（堀江八人斬事件）

・明40 三遊堂金馬の一座に身を投じ、旅芸人としての生活が始まる。

▽他人は、面と向かえば「不自由でしよう」と同情するが、陰では「二股大根のお化け」と悪口。

▽巡業中、鳥籠のカナリヤが、□で雛に餌を与え育てる姿を見て強い感銘を受ける。

▽□で筆をとることを思いつき、字を知らなかつた彼女は、小学校に飛び込み、字を習い、舞台の間（ま）で寸（すん）を惜しんで絵画書道を独学（ひとり）で習。19才

・明41 寄席の舞台から引退を決意。

・明45 山口草平（日本画家）と結婚

する。24才

▽一男一女の母となるも、主人の不貞現場を見る。女として、妻としての苦しみ。

相手の女性が、大正七年スヘイン風邪で苦しむ。我が口をつけて青い瘰癧を吸い取ってやる。病人手を合わせて泣く。

・昭2 山口草平と離婚。画筆に専念。

身体障害婦女子の福祉相談を始める。37才

・昭8 高野山で出家得度「順教」と改む。43才

・昭9 陸軍省の要請で、傷病兵士の慰問のために渡海。

・昭11 京都勤修寺境内に、身体障害者福祉相談所（自在会）を設立。

・昭22 自在会を改め仏光院を創設。
▽身障者に、茶道・習字の塾をつくる。手元に引き取り育てる。その数 百人に及ぶ。

・昭30 般若心経の写経、日展入選。

・昭36 仏光院本堂落成。

・昭37 東洋初、世界身体障害者芸術協会課員に認証される。

・昭41 ドイツのミュンヘン美術館で個展を開催。多大な感銘を与える。

・昭43 仏光院の自坊にて遷化。80才



順教尼は、「自身の人生について、次のように述懐されておられます。

「二〇に申し上げてしまえば、私は忍びやすい人生の出発に恵まれていたのだろうと思っているのであります。それは一つには両手を失った『無手』の身であること。一つには何も知らない『無智』なものであること。一つには、どんな人ともひとつになれる貧乏な『無財』な

ものであったからであります。

この三つの無形の財産が、私のゆく道に、どれだけ幸せにしてくれたであらうかを思い、しみじみと感謝しているのであります。」

また、次のような和歌を残されています。

◆喜びも悲しみもみなおしなべて
おのが心のうちにこそあれ

◆□に筆取りて書けよと教えたる
鳥こそわれの師にてありけれ

◆たなごころ

あわせむすべも
なき身には

ただ南無仏と

となえのみこそ



以上、順教尼から学ぶべきことは、逆境を感謝の心へと転換されていることです。高一の「男君の幸せを祈らずにおられません。」

断食 だんじき

インドの苦行僧も、イエス・キリストも、そしてマホメットも「断食」を修行の一つとしてとらえた。こうした風習は古来から世界各地に存在し、現在でもハンガーストライキという断食方法を一つの抗議形態として用いる人々もいるが、仏教の断食はあくまで悟りの境地に達するための苦行。

ではなぜ、食物摂取を断つことが修行になるのか？ まず、体内からさまざまな腐敗物をなくして体を清浄にするためである。つまりは、純粹世界に到達するには、純粹な肉体が必要になるというわけだ。

「断食修行」の程度にもいろいろあるが、最もすさまじいのは、食物はもちろん水もとらずにそのまま

死に至るもの。要するに、ミイラになると思えばいい。これは「**身成仏**」と呼ばれ、出羽三山のミイラや、高野山の奥の院で成仏したという**空海**の伝説が有名。

断食は、自己の訓練のためでもあり、同時に救済の功德ともなると思われていた。現在のようにただやせたいがためのダイエットは、断食の概念には入らない。

雑記

▼春彼岸施餓鬼会



『仏教のことば』早わかり事典
 今年は、立春を過ぎてからの方が寒く、体調を崩されてはいらっしゃいませんか？ しかし、日差しは、春を感じるくらいこの頃です。もうしばらくの辛抱ですね。

お施餓鬼が勤まります。皆さま

まお揃いで、お参り下さいますようお願い申し上げます。

◎期日 三月二十日（木）

◎時間 一時半～二時四十分位

▼ネコ

去年の春生まれた外猫の「シマちゃん」（アメリカンショートヘア）似で、結構かわいい、ちょっと変わった性格を持っています。とても人なつこく、誰にでも寄つていき甘えます。犬も怖くなく、当方の犬の散歩の時も、よく一緒につきてきます。通行中の方々は、不思議そうに見ていかれます。ヨチヨチの頃、瀕死の状態から立ち直ったためか、あまり大きくなれず、今の性格が形成されたのかもかもしれません。

◆訪ぬるか古街道より

雛だより 沐魚